



けんすけタイムズ Rensuke Times

立憲民主
The Constitutional Democratic Party
RIKKEN MINSHU

LINE
公式アカウント



愛知 13 区

安城・刈谷・碧南・知立・高浜

タイトル

高市早苗、自民党新総裁

衆議院議員



おおにし健介

高市早苗、自民党新総裁

自民党総裁選は、一年前と変わらない顔ぶれで、石破さんが選ばれた選挙の「敗者復活戦」の様相で、各候補とも党内の広い支持を得るために自らの主張を封印したため討論も盛り上がりを見せました。

そんな中、私も地元を歩いていると、「誰がなったらいいと思いますか。」とか「誰が勝つと思いますか。」とよく聞かれました。私は、まず、「一年前に多くの人が『石破さんなら自民党を変えてくれるのでは』と期待したが、自民党は変わらなかった。誰がなっても同じでは。」と答えた上で、「決選投票では小泉さんの勝利はほぼ間違いないのではないかと答えていました。

結果は、決選投票で、高市さんが小泉さんを破り、新総裁となりました。1978 年の自民党総裁選予備選で大平正芳幹事長に敗れ退陣を表明した福田赳夫首相は、「天の声にも変な声がある」との名セリフを残しましたが、私はこの結果を負けた小泉さんはもちろん全ての議員が率直に受け止めるべきだと思います。私自身もマスコミの下馬評を信じた自らの不明を恥じています。

「天の声」という点について言えば、黨員票で小泉さんが失速したのが大きかったと思います。黨員の声は、投票先を決めていない議員や迷っている議員には影響を与えたと思います。黨員票失速の理由は、いわゆる「ステマ指示問題」の影響もあったとは思いますが、私は、むしろ、党内融和を重視するあまり昨年打ちだした改革路線の政策を封印したことで、小泉さんの若さや改革派という「進次郎らしさ」を失わせたこと、今月末に予定されているトランプ大統領との首脳会談を想定した時に「小泉で大丈夫か。」という不安が広がったことの方が大きかったのではないかと見ています。

その上で、決選投票で、高市さんが議員票を大きく積み増して勝利したのは、御年 85 歳の麻生太郎最高顧問のおかげであることは間違いありません。麻生さんは、自民党に唯一残る派閥・麻生派の議員に対し、1 回目の投票では、茂木さんと小林さんにそれぞれ投票するよう指示し、2 回目の決選投票では高市さんに投票するよう伝えたと言われている。



【衆議院議員 おおにし健介事務所・立憲民主党愛知県第 13 区総支部】

〒446-0074 愛知県安城市井杭山町高見 8-7 2F

TEL: 0566-70-7122

FAX: 0566-74-2008

メール office@oniken-web.jp

1 回目の投票で茂木氏と小林氏に「票を貸しておく」ことで、決選投票では議員票で不利とされた高市氏の逆転を図った麻生氏の老獪さが光った結果でした。

ただ、これこそが派閥政治、長老政治という古い政治の象徴であり、その後の党執行部人事を見ても、金と人事を握る幹事長に、麻生さんの義理の弟で、鈴木善幸元総理の息子である鈴木俊一元財務相を充てたことを始めとし、麻生派、旧茂木派に露骨な「論功行賞」人事となっており、「やっぱり自民党は変わらない」ことを示していると思います。

では、他の政党は高市自民党にどう対応していくのか。高市新総裁は、連立政権の枠組み拡大を視野に入れていると言われていますが、総裁に選出された翌日の夜、国民民主党の玉木代表と極秘に会談したことが分かっています。長年、連立のパートナーとして、「政権のブレーキ役」を自認してきた公明党は怒り、高市氏の保守的な政策や政治資金問題への対応をめぐり不満を募らせ、9月10日、連立離脱を表明しました。

公明党が26年に及ぶ自民党との協力関係に終止符を打ったことで、本会議での総理大臣指名選挙では、自民党総裁となった高市さんが内閣総理大臣に指名されない可能性も出てきました。

立憲の安住幹事長は、野党がまとまるのであれば、国民民主党の玉木代表を首班指名することも選択肢となると言及し、政権交代の可能性も出てきました。

但し、誰が首相になっても、前途は多難であり、先々を考えると政界再編の芽も出てきました。

衆議院で148議席を有する第2党の立憲民主党の責任は大きく、また、私自身も当選6期の中堅として、日本の政治を良い方向に変えていけるよう責任を果たしていく決意です。

立憲民主党でも党人事や臨時国会に向けた委員会の配置換えが行われました。新幹事長には、ベテランで、与野党に幅広い人脈を持ち、硬軟合わせた手腕に定評がある安住予算委員長が就任し、政調会長には2期生の本庄さんが抜擢されました。また、私の政治の師である馬淵澄夫代議士は代表代行に就任しました。ちなみに、高市さんは、2003年の総選挙で新人の馬淵さんに奈良1区で苦杯を喫しました。当時、高市さんはテレビ出演するなど売り出し中で、父の転勤で中高生時代を奈良1区で過ごした私は、「高市さんに小選挙区で勝って比例復活を許さなかった馬淵さんとはどんな人なのか。」と興味を持ち、たまたま私を馬淵さんに紹介してくれる人がいたことが縁で馬淵代議士の政策秘書になりました。高市さんがいなければ私が馬淵澄夫という政治家に興味を持つことはなかったかもしれません。

私は、党務では、選対委員長代行として、逢坂選対委員長を支え、再び選対の仕事をする事となりました。国会では、長年、厚生労働委員会に所属してきましたが、今回は、あえて厚労委員会には希望を出さず、経産委員会で筆頭理事を務めることとなりました。あらためて、愛知の自動車産業をはじめとするものづくり、産業政策、通商政策、エネルギー政策に真正面から取り組んでいきたいと思っています。



Profile



▶昭和46年4月13日生まれ

▶京都大学 法学部卒

▶国会職員、在アメリカ大使館二等書記官、衆議院議員 馬淵澄夫政策担当秘書を経て、平成21年第45回衆議院議員総選挙で初当選。以来、連続6期当選。

▶党務では、選対委員長、青年局長などを経て、現在は選対委員長代行

▶国会では、経産委員会（筆頭理事）、消費者特別委員会

▶小学生、中学生2人の男の子のパパ。ニックネームは「オニケン」